

みやぎの 林業だより



表紙写真

県産材をふんだんに活用した木造災害公営住宅の建設が本格化してきました。

山元町新山下駅周辺地区

<関連記事P3>

平成25年11月28日
発行

201号

話 題 ◎第6回「みやぎの森林・林業写真コンクール」・

「みやぎ児童生徒木工作コンクール」が開催されました…………… 2

◎県産材利用促進功労者を表彰…………… 2

◎地域協議会による災害公営住宅建設について…………… 3

◎石巻の復興住宅への県産材の活用が進んでいます…………… 3

◎枯損した瑞巖寺のスギ=コンサートホールのベンチとして再生…………… 4

◎「仙台市泉岳自然ふれあい館」完成直前に全焼するも早期再建へ着手…………… 4

◎平成25年度「鬼首山の子探検隊活動支援」…………… 5

◎林道二口線の通行規制を今年も一時的に解除しました…………… 5

◎汚染ほだ木等撤去集積事業について…………… 6

◎宮城北部流域・森林林業活性化センターが復興支援講演会を開催！…………… 6

◎「栗原の森林・自然・きのこ生産現場見学会」を開催…………… 7

◎平成25年度農林産物品評会～林産物は2年ぶりの開催～…………… 7

◎緑と自然の大切さを学ぶ！

第38回宮城県みどりの少年団大会開催される…………… 8

◎東日本大震災により失われた身近なみどりの再生を目指して！…………… 8

◎保育間伐に環境税の活用を…………… 9

◎森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業がスタート！…………… 9

◎平成25年度森林土木技術業務成果発表会を開催…………… 10

◎大河原管内の林地及び治山施設被害の復旧状況…………… 10

◎広葉樹の病虫害について…………… 11

◎松くい虫国営防除事業の実施…………… 12

シリーズ ◎研究情報コーナー

・ニホンジカによる森林被害を予防するために…………… 12

市 況 ◎木材市況の動向・特産市況の動向…………… 13

目

次

第六回

みやぎの森林・林業写真コンクール
みやぎ児童生徒木工作コンクール
が開催されました

「みやぎの木づかい運動」の一環で開催され、今年も多数の御応募をいただきました。主な入賞者は次のとおりです。

「写真コンクール」

主 催 公益財団法人みやぎ林業活性化基金

募集期間 七月～八月

応募作品 六十二点
(応募者二十三名)

最優秀賞 栗林 直昭様(写真)

「古民家の縁側」

優秀賞 小木津好夫様

「命育む森のレストラン」

同 宍戸 司様

「晩秋の林道」



最優秀賞
「古民家の縁側」

「木工作コンクール」

主 催 宮城木材文化ホール運営委員会

募集期間 七月～九月

応募作品 二〇六点(応募校数六十一の校内審査を経た作品数)

◆小学校低学年の部

最優秀賞 大崎市富永

石川 結菜さん(写真)

優秀賞

仙台市茂庭台
熊谷眞之介君

同 仙台市寺岡
島田 大誠君



低学年最優秀賞
「かえるのがっしょう」

◆小学校中学年の部

最優秀賞 仙台市七郷

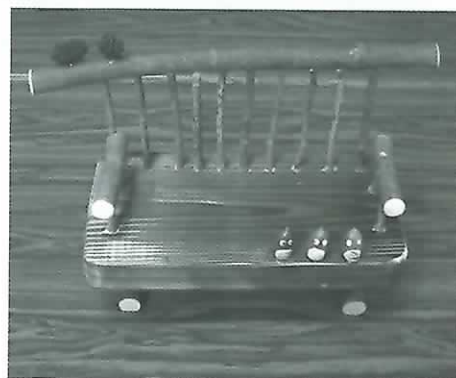
川村 拓大君(写真)

優秀賞

東松島市大曲
難波 亮汰君

同 登米市米谷
阿部 歩美さん

阿部 歩美さん



中学年最優秀賞
「どんぐりたちのおしゃべり」

◆小学校高学年の部

最優秀賞 気仙沼市小原木

吉田 巧樹君(写真)

優秀賞

仙台市六郷
田中 颯君

同 白石市大鷹沢
菊池 大樹君



高学年最優秀賞
「ピックスプーン」

県産材利用促進功労者を表彰

県では平成十九年から県産材利用拡大に顕著な功績があった個人・団体に感謝状贈呈を行っています。今回は震災の津波被害からいち早く復旧を果たし、復興住宅等への県産材供給の役割を担っている(株)山大(石巻市)が選ばれ、十月八日の木の日、石川寛猛社長へ若生副知事から感謝状が贈られました。

《石川社長のコメント》

「各方面からの御支援で早期復興を果たせた。県産材へのこだわりが認められ、社員の励みにもなる。木材は乾燥が大切というポリシーを継続しながら復興のニーズに対応して行きたい。県産木材で家を建てると、建て主にも喜んでいただける。」



石川社長への感謝状贈呈

(林業振興課みやぎ材流通推進班)

**地域協議会による
災害公営住宅建設について**

東日本大震災では住宅の全半壊が十八万戸という未曾有の被害があり、現在も九万人以上の方が仮設住宅での生活を余儀なくされています。震災復興計画では住宅再建が最重要課題に位置づけられ、県内の災害公営住宅は平成二十七年年度までに一万五千戸が整備される計画です。このうち戸建木造住宅建築は約四千戸が見込まれ、県の整備指針や発注仕様により、県産木材の積極的使用がうたわれていることから、県産木材の安定的な供給が必要な状況です。

一方、公共事業である災害公営住宅は建設条件の制約や今後の資材・職人等の不足が懸念されることから、各地では、林業・製材業と建築関係等の事業者が連携して協議会を設立し、資材・人材の地元資源を総動員しながら早期の住宅建設を推進する取組が始動しています。

この取組では、協議会と市町が整備協定を締結の上、設計や施工を協議しつつ、完成した住宅を市町が買い取るという方式で事業が進められます。

現在、南三陸町、登米市、女川町、亶理町及び気仙沼市で協議会やグループの設立が終了し、早期着工と完成に向けた体制が整いつつあり、これらの取組によって、合わせて約二千戸の公営住宅が建設される見込みとなっています。



協議会体制による歛入式(登米市・H25.9)

**石巻の復興住宅への
県産材の活用が進んでいます**

東日本大震災は石巻地域に極めて甚大な被害をもたらし、多くの市民が生活基盤となる住まいを失いました。大震災から既に二年半が経過しましたが、依然多くの方々が仮設住宅等での生

(林業振興課みやぎ材流通推進班)

活を余儀なくされています。被災された方々に、地元森林で育った木材を活用し、住む人の健康に優しい地産地消型の住宅を早期に提供すべく、石巻地域の川上(林業)から川下(製材業、工務店等)までの関連業者十三団体で組織する「木づかい名人の木づくし木造住宅石巻の会」(会長・鈴木健一 石巻地区森林組合代表理事組合長)は、会員自身も被災しながら、石巻地域の個人住宅の復興に携わってきました。



石巻産材を活用した住宅の見学会

そのような中、同会では九月七日に石巻市蛇田において、石巻産材を活用した住宅の完成見学会を開催しました。見学会に参加された方々は、ふんだんに

使われた木材のぬくもりに触れ、自宅再建に向けて思いを新たにしているようでした。

一方、石巻市内の災害公営住宅について、地元業者等で建設を担うべく、市内の四十社を超える工務店・設計事務所が連携し、協同組合を設立することとなり、十月二日に市内のホテルで創立総会が開催されました。同協同組合では、地元産材の利用拡大を図るべく、石巻地区森林組合や(株)山大、(株)ホーム建材店とも連携し、いち早い災害公営住宅の整備に向けて今後取り組んで行くこととしています。



「石巻地元工務店協同組合」の創立総会

(東部地方振興事務所)

当事務所では、林業・木材産業の復興のためにも、県産材の利用拡大を図りながら、石巻地域の住宅の復興に向けて、今後とも支援を行ってまいります。

枯損した瑞巖寺のスギ

コンサートホールとして再生

国宝瑞巖寺境内にある樹齢一二〇〜三〇〇年のスギ並木は、東日本大震災の津波被害により枯損が進み、これまで四四〇本が伐採されたことから、その利用方法について、関係者間で検討が重ねられていました。

このような中、国内外の著名音楽家・芸術家が発起人となり、被災地の住民と新しい地域文化を創り出すことをめざして、音楽祭が松島町で開催されることとなり、そのコンサートホールのベンチとして、被害木のスギ材が活用されることとなりました。



西行戻しの松公園に出現した可動式コンサートホール「アーク・ノヴァ」

ベンチの製作に当たって市民参加のワークショップが開催され、地元森林組合の協力を得て伐採・製材・人工乾燥された材で、地元家具工房の監修のもと、四日間で延べ三二〇人の家族らが参加し、一六〇脚を完成させました。

ホールに運ばれた無垢材のベンチは、座り心地も良く重厚感があり、近未来的な空間にも融合していました。今後、ホールとともに、被災地を点々と移動しながら、音楽と復興成就の願いが届けられる予定です。



完成した4人掛ベンチ



ホールに設置されたベンチ

(仙台地方振興事務所)

仙台市泉岳自然ふれあい館 完成直前に全焼するも 早期再建へ着手

「泉岳自然ふれあい館」は、老朽化した「泉岳少年自然の家」に代わる施設として、「森林整備加速化・林業再生事業」を活用し仙台市が少年自然の家の東側に平成二十二年から整備を進めています。

今年九月のオープンに向け、様々な施設が完成していた「自然ふれあい館」は、地元根白石産のスギや、東日本大震災に伴う津波の被害を受けたアカマツから作った合板など、木材をふんだんに使用する設計で、使用開始が待たれていました。当林業だよりでもオープンをお伝えすることを楽しみにしていたのですが、四月五日深夜に火災が発生し、六棟ある施設のうち一番大きなA棟が全焼してしまいました。

A棟は、「自然ふれあい館」全体を管理する設備や事務室がある、キーとなる建物でした。そのA棟が失われてしまったため、被害のなかった施設も含めた「自然ふれあい館」全体のオー

ブンが大幅に遅れることになってしまいました。

しかし、早くも七月にはA棟再建に向けた工事が再開されました。燃えてしまった木材部分は、新たに県産材を調達し元の仕様どおりに再建される予定です。

建設材料が値上がりするなど、再建工事には新たな経費も伴いますが、来年夏のオープンに向けて工事が進められています。

なお、火災の原因については、仙台市消防局では放火としていますが、警察の捜査は継続されています。



火災直後、足場だけが残ったA棟 現在、再建が進められています

(林業振興課林業基盤整備班)

平成25年度
鬼首山の子探検隊
活★動★支★援

去る八月十日及び十一日に昨年度に引き続き第二回目となる「海の子山の子交流会」が大崎市鳴子温泉鬼首の吹上高原をメイン会場として地元の子供達十六名と石巻の子供達二十名の総勢三十六名が参加し、開催されました。

本交流会は、鬼首地区公民館が主催する「鬼首山の子探検隊」の活動の一環として行われたものですが、その経緯は、森と海との架け橋事業として植栽等の作業を石巻地域の方々と実施していた際に探検隊の活動が始まりました。その中でも川上と川下のつながりを持ちたいと考えていた矢先に震災が発生し、中断を余儀なくされていたところ、昨年度に鬼首小学校と鮎川小学校の先生が知り合いだったことや震災時に石巻市牡鹿地区へ支援を行ったこと等により、地域間の結びつきが強くなったことが縁となって開催される運びとなりました。

交流会の内容は、毎年違ったものを行いたいとする主催者の

考えからウォークラリーや鬼ノ國心鼓会による太鼓演奏等、前回とは趣向を変えて実施され、当事務所からは木材への親しみを深めてもらうために「木工教室」を開催しました。使用する材料に工夫をして、大崎地域で育った木が石巻地域で加工されたと仮定し、石巻の合板会社から提供を受けた剥き芯を用いました。

当日は、暑い日差しでの降り注ぐ屋外での作業となりましたが、大粒の汗をかきながらも子供達は交流を深めつつ思い思いの作品づくりに取り組みしました。



板ではない剥き芯(丸棒)での木工に熱中!

(北部地方振興事務所)

林道二口線の通行規制を
今年も一時的に解除しました

仙台市太白区秋保地区と山形市山寺地区を結ぶ林道二口線は、原生林や名取川源流部の渓谷が織りなす風光明媚な景色が楽しめることから、県民の皆様から通行情報に関するお問い合わせが多数寄せられています。

県では、通行の安全性をより一層高めるため、「林道二口線改良事業計画書」に基づいて、路盤の舗装や斜面保護などの改良工事を実施しており、今年も工事調整の関係や、新たに落石の危険のある箇所が発見されたことなどから、白糸の滝ゲートから県境までの区間は通行止めとしてきましたが、秋の行楽シーズンに合わせて、昨年に引き続き、その規制を一時的に解除しました。

今年も、山寺立石寺根本中堂に安置されている御本尊「薬師如来坐像(国重要文化財)」が五十年に一度の御開帳の年にあたることから、丁度、紅葉の時期と重なる御開帳日には、多くの行楽客の利用が見込まれるため、山形県側からも通行規制の一時解除について強い期待が寄せられています。

せられておりました。通行規制の解除は、十月二十日から二十七日までと、十一月二日から四日までの計十一日間実施いたしました。

期間前半は前線や台風の影響で曇りや雨の日が多く、あいにくの天候が続いた上、紅葉の時期も例年より多少遅いようであり、絶好の紅葉狩り日和とまでは行かなかったようですが、晩秋の渓谷美と絶景を楽しむと、多くの車両が峠越えを目指して訪れた模様です。

なお、宮城県側は砂利道で凹凸や急坂が続く区間が多く、道幅も大変狭いため、対向車とのすれ違いに不便な状況はありますが、期間中の交通事故やトラブル等も特になく、利用者の皆様には、細心の注意を払われて、安全な通行にご理解とご協力をお願いいたします。



(林業振興課林業基盤整備班)

汚染ほだ木等 撤去集積事業について

東京電力福島第一原子力発電所の事故により、きのこほだ木等が放射性物質に汚染されましたが、原木しいたけ生産者が自力で汚染されたほだ木等の撤去を行うことは難しく、撤去集積と賠償に関する支援を求める強い要請が県に寄せられています。

そこで県は、汚染ほだ木等の速やかな撤去集積のため、生産者が森林組合の臨時作業班員としての従事も想定した「汚染ほだ木等撤去集積事業」を事業化しました。

本事業は東電賠償請求の一環として、事業終了後に森林組合連合会を介し賠償請求を行うこととし、事業の実績を賠償請求の確実な証拠として用いるため、県の確認調査(処理本数・出役数等)を実施すること、請求に対する未払いが生じないよう考慮したものです。

平成二十五年春から県内各地で本事業が開始され、本年度中に約百三十万本の汚染ほだ木等を撤去集積する予定です。

この汚染ほだ木等の撤去集積

は、あくまで「一時仮置き」であり、最終処分方法が決まるまでの暫定的な措置になります。撤去作業を行った生産者からは「撤去作業の賃金が得られて感謝している。」また、「汚染ほだ木の撤去が無ければ生産継続・再開は出来なかった」等の声が寄せられています。

原木しいたけは、露地の出荷制限による直接的な生産減に加えて、風評被害もあり、県内生産量は震災前の1/4になる等、大幅に落ち込んでいます。

今後、県では原木しいたけの生産再開と回復に向け、無汚染原木の購入や、生産工程管理の実施に伴う各種支援等、原木露



地しいたけの出荷制限解除に引き続き取り組んでいくこととしています。

(林業振興課地域林業振興班)

宮城北部流域・森林林業 活性化センターが 復興支援講演会を開催!

十月二十四日に、一般公募から五十二名の参加を得て、宮城北部森林・林業活性化センター登米支部、農林中金、みやぎ・環境とくらし・ネットワークの主催による『ポスト三・一一の新しい地産地消を目指して』と題し、講演会が開催されました。

筑波大学五十嵐泰正准教授から、千葉県において、原発被害を受けつつも、地産地消の活動を行い、得られた知見として、「原木シイタケのおいしさが消費者に再認識されても、代替購買行動の定着や市場関係者のアレルギー反応から流通が回復しない現象があるので、おいしさをもっとアピールしなければなりません。」とのお話がありました。講演に続き、岩手大学山本信次准教授のコーディネートで岩手県宇津野木戸しいたけ生産組合菊池俊秋組合長とみやぎ・環境とくらし・ネットワーク清水智子理事をパネラーに加え、生産者の苦悩と努力、消費者サイドの支援活動についてパネル

ディスカッション及び質疑応答が行われました。参加者からは、原木シイタケの施設栽培と露地栽培の得失について質問がありました。

菊池組合長の「施設栽培は労働強度を下げ、低コスト化に資する。原木シイタケ栽培は、楽しくて止められない。」とのお話しは、地元生産者に共感を得たことと思います。

参加者は皆、暗くなるまで熱心に聴講、質疑し、明日のキノコ栽培について、こころを新たにしました。



参加者は熱心に聴講しました

(東部地方振興事務所
登米地域事務所)

栗原の森林・自然・きのこ生産現場見学会を開催

六月二十九日(土)、「岩手・宮城内陸地震の風化を防ぐ」福島第一原子力発電所事故による風評被害を払拭することを目的に、公募により仙台市在住の県民を中心に二十六名の参加の下、見学会を開催しました。



復興植樹

栗原市栗駒耕英地内(冷沢)の復旧治山工事現場では、宮城北部森林管理署宮城山地災害復旧対策室長から工事概要の説明の後、現場でブナ・ヤマボウシなど合わせて二十二種四十二本の木を植えました。現場は重機に

よる盛り土で、土が硬く、やせているため、植穴を掘った後に培養土を施し苗木を植え、最後に水やりをしました。参加者は「あらためて自然の恐ろしさを知った」「来年も開催されれば植樹にきたい」「十年二十年後、大きくなった樹を見にきたい」と話していました。



菌床なめこの収穫体験

なめこ生産現場では、なめこの生産工程や放射能対策の説明の後、収穫体験や試食が行われました。参加者からは、「菌床きのこが安全であることを知った」「家で料理してみたい」と大変好評でした。

(北部地方振興事務所
栗原地域事務所)

平成二十五年度

農林産物品評会

林産物は二年ぶりの開催

みやぎまるごとフェスティバルの一環として、去る十月十八日、農林産物品評会を開催しました。この品評会は、生産者の生産意欲の高揚と生産技術の向上を目的とし、今回で六十五回目の開催となりますが、昨年は原発事故に伴う放射性物質の影響により開催することができませんでした。

しかし、県外から汚染されていない生産資材を購入し、施設栽培することにより、安全なしいたけ生産に取り組む等、生産者の努力により、二年ぶりに開催することができました。

例年、林産物の品評会では「生しいたけ」、「くり」、「木炭」の審査を行います。今年も生しいたけのみの審査となりました。しかし、出品された生しいたけは、いずれも肉厚の良品が揃い、生産者の皆様の日頃の御努力がうかがわれる内容でした。

入賞者は、以下のとおりです。おめでとうございます。

農林水産大臣賞

仙台市 熊谷 幸夫氏

林野庁長官賞

仙台市 安達 雄一氏

食用茸協同組合長賞

大和町

(農)七ツ森菌床椎茸生産組合

森林組合連合会長賞

登米市 後藤新太郎氏

林業振興協会会長賞

登米市 高橋 龍一氏

特用林産振興会長賞

栗原市 千田 鈴子氏



農林水産大臣賞 仙台市



熊谷幸夫氏 (^o^)/

水産大臣賞
(林業振興課地域林業振興班)

**緑と自然の大切さを学ぶ！
宮城県みどりの少年団
第38回 大会開催される**

今年で三十八回目となる同大会が七月二十六日に開催されました。今年度から東日本大震災により被災した県民の森内の各施設及び周辺の道路が使用できなくなったことから、県民の森を会場として、県内各地から二十三の少年団四〇八人が参加し、植樹活動及び式典が行われました。

当日は、あいにくの雨模様のため天候となり、自然散策及び植樹は予定どおり実施されましたが、式典は中央記念館内で行われ、交流会及びレクリエーションは中止となりました。

大会では、受付会場のグラウンディ21集いの広場から式典会場（県民の森中央記念館）まで、歩道沿いに設置された自然や樹木に関するクイズを解きながら、自然観察が行われ、植樹会場（ぐりりの森）ではイロハモミジなどの広葉樹十六種三八〇本が各少年団員によって丁寧に植樹されました。

式典では、石巻市立北村小学校みどりの少年団から地元利府

副町長へ記念木が贈呈されたのを受け、副町長から歓迎とお礼の言葉がありました。また、白石市立深谷小学校みどりの少年団から日頃の活動内容が発表され、活発な活動の発表に会場から拍手が起りました。



自然散策の状況



植樹活動の状況

**東日本大震災により失われた
身近なみどりの
再生を目指して！**

百万本植樹事業は、みどり豊かな県土と潤いのある生活環境を創造するため、「みどりのクニづくり事業」の一環として平成五年度から事業が実施されています。これまで県内の各施設等の緑化を主体に実施してきましたが、平成二十四年度からは、東日本大震災により失われたみどりの復元を目指して、事業を拡充し実施しています。

具体的には、学校、市町村庁舎等、体育館、グラウンド、図書館、公園等公共施設、道路、河川敷等、企業の事務所、工場敷地等周辺環境と一体的に緑化を図る必要があると認められる場所などへの植樹に加えて、津波等の被害により枯れてしまった箇所への補植等についても、この事業が活用できるようにしました。

今年度もこの事業を活用し、五市で二十箇所、一一二六本の緑化木が、各施設等に配布され、地域の方々が連携した植樹活動が行われています。

今後も東日本大震災等により失われた地域の身近なみどりの再生とみどり豊かな県土づくりを目指した事業を展開していきます。



植樹活動後の記念撮影



地域の方々が連携した植樹活動

(自然保護課みどり保全班)

保育間伐に環境税の活用を

1 間伐の制度改正

国の新成長戦略に位置付けられた「森林・林業再生プラン」を具体化するため、平成二十三年四月に森林法が改正され、森林所有者がその「責務」を果たし、森林の有する公益的機能が十分に発揮されるような様々な制度措置がされました。

森林施業の集約化に向けた努力やコスト削減意欲を引き出しつつ必要な経費を直接支払う森林管理・環境保全直接支払制度が創設され、一申請当たりの面積が五畝以上かつ平均搬出量がヘクタール当たり十立方メートル以上の搬出間伐が対象となるなど、補助制度が変わり、対象が原則的に木材を搬出する間伐に限定されました。

2 間伐面積と保育間伐

国の制度改正により、搬出すればするほど補助率が高くなるなど、林業経営を意欲的に行える制度となる一方、県全体の間伐面積が減少しています。

これは、これまで広く行われてきた「保育間伐」や「伐り捨て間伐」といわれる、木材を搬出しないう間伐が補助金の対象外となったことなどが一因であると思われる

ます。

搬出間伐のためには林道や作業道の路網が必要不可欠ですが、その整備が遅れていること、森林施業の集約化や経営計画の厳格化により、森林所有者の同意や調整に時間を要していること、林齢が若かったり生育不良などにより、そもそも搬出しても大きく赤字になる森林が多いなど、条件が揃わないことがあると考えられます。

3 温暖化防止間伐が拡充

もし、このまま間伐を怠れば、将来の森林の価値を失うことに加え、土砂の流出防止や水源かん養を始めとする多様な公益的機能を低下させてしまうこととなります。

平成二十三年度から、県単独事業として環境税を財源とした温暖化防止森林づくり推進事業を実施しており、国庫補助では対象とならない林齢十一〜二十五年の初回間伐に加え、今年度からは生育不良や搬出条件が悪く、販売しても収入にならない林齢二十六年〜四十年の保育間伐に対する補助も追加しました。

各種補助制度を活用し、皆で間伐を推進しましょう。

(森林整備課森林育成班)

森林・山村多面的機能発揮 対策交付金事業がスタート!

森林・林業を支える山村の過疎化や高齢化等の進行に伴って、十分に管理の行き届かない森林が増加するなど、森林の有する多面的な機能の発揮が難しくなっています。

このため林野庁では、森林所有者や地域住民等が協力して里山林等の保全管理、森林資源の利活用、森林環境教育など、山村地域の活性化に資する取組を支援する制度として「森林・山村多面的機能発揮対策」を今年度に創設したところです。

主な内容は次のとおりです。

① 地域環境保全タイプ

里山林維持のための景観保全・整備活動、鳥獣被害の防止活動、枯損木の除去、侵入竹の伐採・除去活動など(ヘクタール十六万円・竹林整備三十八万円)

② 森林資源利用タイプ

里山林の未利用資源をバイオマスや炭焼き、しいたけ原木等として利用する活動など(ヘクタール十六万円)

③ 森林空間利用タイプ

森林環境教育や森林レクリエーション活動の実践など(一

④ 資機材及び施設の整備

①及び②の実施のために必要な資機材及び施設の整備(必要額の二分の一以内)

対象となる活動組織は、三名以上で構成された住民組織です。地域の自治会やNPO法人、森林組合等が単独で実施又は住民組織の一構成員となって活動することも可能です。

交付金申請の窓口となる「地域協議会」は、本県では宮城県緑化推進委員会内に設置され、すでに幾つかの団体が採択を受け活動がスタートしています。

県では、引き続き事業の周知や市町村との連携、活動組織への技術的な助言等を行いながら、活動を支援してまいります。



写真は森林空間利用タイプの参考例

(林業振興課林業基盤整備班)

平成二十五年年度 森林土木
技術業務成果発表会を開催

宮城県森林土木業務発表会は、治山林道事業を担当した職員が得た知識や技術等を発表し、設計思想や現場技術の向上に寄与することを目的として、平成十五年度より開催していま

す。今年度は七月二十九日、宮城県林業技術総合センター研修館を会場として開催されました。 県内七事務所から七課題(治山四・林道三)の発表があり、治山部門として①林野火災からの復旧に向けて(角田市島田地区の治山事業施工状況等)②緑化工の施工事例(ヤナギ材を用いた木製構造物施工(第四報))③地域材を利用した合板敷板の需要拡大について(敷板合板の利用実証試験)④平成二十三年東北地方太平洋沖地震災害に係る治山施設の被害・復旧について(気仙沼管内の海岸施設の被害・復旧計画)が、林道部門として①林道二口線ヒストリア(歴史をさかのぼり新たな開通をめざして)②林道法面におけるニホンジカの食圧等を防止するための一考察(女川京ヶ森線の施工事例)③自然緑化による

法面保護工について(自然発芽を誘導する切土法面の試験施工)が発表されました。

各発表とも、震災の復旧・復興で忙しい中、自己の業務の中にテーマを見いだし、現在の事象を見つめ研究し治山林道の実用性に貢献できる発表内容でありました。

審査は、①テーマへの着眼点 ②研究過程 ③研究結果 ④発表態度・熱意 ⑤テーマの実用性・貢献度の各項目について採点した結果、東部地方振興事務所の阿部技師・青沼技術主幹の共同発表による「林道法面におけるニホンジカの食圧等を防止するための一考察」が最優秀賞を受賞しました。

また、優秀賞としては、北部地方振興事務所の滝澤技術主幹・本田技師が共同発表した「緑化工の施工事例」が受賞しました。

以上二点について、山形県で開催された、東北・北海道地区第四十九回治山林道研究発表会へ推薦・発表した結果、同発表会においても、阿部技師・青沼技術主幹の共同発表が最優秀賞を受賞しました。

(森林整備課治山班)

大河原管内の林地及び
治山施設被害の復旧状況

平成二十三年三月十一日に発生した東日本大震災は、未曾有の大災害として太平洋沿岸部の津波被害をはじめ、県内全域に爪痕を残しましたが、大河原地方振興事務所管内においても、西部地域に位置する白石市、蔵王町及び川崎町において、山腹崩壊、落石、治山施設の流失など六箇所(林地及び治山施設被害(被害額四億七五〇〇万円)が発生しました。

表 林地及び治山施設被害箇所復旧状況

区分	工事箇所	地区名	事業期間	工事内容	進捗
林地被害	白石市小原	蝦夷倉	H23-H24	緑化工	完成
	白石市福岡蔵本	長峯	H23-H26	法枠工等	施工中
	蔵王町大字曲竹	馬越	H23-H24	落石防止工	完成
	川崎町支倉	碁石	H23-H24	落石防止工	完成
	川崎町支倉	碁石川	H23-H25	法枠工等	完成
施設被害	川崎町支倉	碁石川	H23-H24	法枠工等	完成

当事務所では、被災箇所の早期復旧を図るため、災害関連緊急治山及び治山施設災害復旧事業等により平成二十三年度から復旧工事に着手し、平成二十五年十月までに五箇所が完成しました。(上表参照) そのうち、川崎町

の碁石川地区は、釜房ダムから下流二級の碁石川(一級河川)左岸側に位置し、大震災で山腹崩壊及び治山施設(法枠工等)が流失して直下の碁石川を閉塞するなどの被害が発生したもので、被災後間もない平成二十三年四月に応急工事として碁石川の崩壊土砂と被災施設の撤去に着手以来、被災施設の復旧工事を平成二十四年五月に、また、被災林地の復旧工事を平成二十五年五月に完成しました。(写真参照)



(被災直後の状況)



(完成状況)

このほか、残る一箇所である白石市長峯地区の林地被害についても、平成二十六年度内の完成を目指し、山腹斜面の復旧工事を施工中です。 県では、一日も早く地域の安全・安心を確保し、快適な暮らしが送れますよう、全力で復旧に取り組んでまいります。(大河原地方振興事務所)

広葉樹の病虫害について

森林病虫害被害の代表的なものとして、いわゆる「松くい虫」被害が広く知られています。近年、県西部の森林を中心にブナ、ミズナラ、コナラといった広葉樹の枯損被害が増加傾向にあります。ここでは、広葉樹林で発生する二種類の被害についてご紹介します。

●紅葉の時期でもないのに

平成二十一年頃から、紅葉の時期にはまだ早い八月〜九月に「葉が赤く色づいている」、「枯れている」といった情報が多く寄せられるようになりました。この枯れ症状原因は、特定の広葉樹を対象とした二つの昆虫が引き起こす病虫害なのです。

●ブナの葉枯れ被害

大崎市、栗原市の比較的標高の高いところに生育するブナ林で、葉が枯れる被害を引き起こしているのは、「ウエツキブナハムシ」(写真)という体長七ミリの昆虫による食害が原因です。葉面の食害は成虫だけでなく、幼虫も同時に行います。

しかし、ご安心いただきたいのは、被害は葉面だけでブナ自

体が枯死に至ることはありません。数年間は同じ林で被害が続けて発生しますが、やがて天敵菌の繁殖により自然に終息に向かいます。



ウエツキブナハムシの成虫(上)と幼虫(下)

●ナラ枯れ被害

大崎市から七ヶ宿町にかけての県西部を中心に、ナラ、ミズナラが枯れる被害を引き起こしているのは、カシノナガキタイムシ(以下「カシナガ」という)という体長五ミリの昆虫(写真)が媒介する病原菌(ラファエリア菌)が原因で、通水障害を引き起こし枯死に至る、通称「ナラ枯れ被害」です。



ナガシノイムシの成虫

ナラ類のほか、シイ・カシ類、クリ、なども被害を受ける可能性があります。

ブナの葉枯れと異なり、葉面だけでなく枯死に至る被害であ

ること、また、「カシナガ」は被害を受けた木に産卵し、翌年六月頃から新たに多くの成虫を造りだし、被害まん延の発生源となることから、確認された被害木は速やかに駆除する必要があります。

●ナラ枯れ被害の特徴

- ・夏季に急に葉がしおれて茶色や赤茶色に枯れる。
- ・幹(特に根元)にカシナガがあげた二ミリの程の穴(穿孔)がたたくさんある。
- ・根元に穿入孔から出た大量の木くずが堆積している。



カシナガの被害木から出た木くず

●ナラ枯れ被害のメカニズム

- ① 六月〜八月頃まで、前年の被害木から成虫が脱出。
- ② 六月〜九月頃まで、雄が穿入を開始し、集合フェロモンを放出し仲間を集める。
- ③ 六月〜九月頃まで、雌雄が集団的に穿入する。これを「マスマタック」と言う。
- ④ 八月〜十月頃まで、マスマタックを受けた木は、葉がしおれ始め、一〜二週間で

●ナラ枯れ被害の駆除方法

被害が確認された木は、新たな成虫が発生する前の五月〜六月上旬までに伐倒して、ビニールで被覆かつ薬剤をくん蒸して殺虫処理をします。

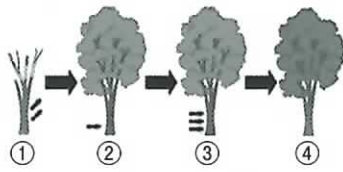
駆除を放っておけば、大径木からは数万匹の成虫が飛び出すこととなり、被害を爆発的に増やす恐れがあることから、適期の駆除が重要となります。

●情報をお寄せ下さい

二つの被害は、初期症状が全く同じですが、ナラ枯れ被害については、適切な手法で早期駆除の必要性があります。

ナラ枯れ被害に関する情報や、被害木の発見情報提供について、県林業技術総合センターのホームページにて行ってまいりますので、是非、ご覧下さい。

<ナラ枯れのメカニズム>



(森林整備課森林育成班) お寄せ下さい。

また、広葉樹の枯損に関する情報については、市町村、県地方振興事務所林業振興部でも受け付けておりますので

●●●松くい虫●●● 国営防除事業の実施

気仙沼市は岩手県との県境に位置し、「松くい虫被害先端地域」に指定されています。被害先端地域では、被害の終熄及び未被害地への被害の拡大の防止を目指し、徹底した防除対策を推進しています。具体的な防除方法としては、被害木を伐倒し薬剤でくん蒸する「伐倒駆除」と、地上からホースや散布車を用いて薬剤を散布する「地上散布」等があり、防除事業は国から県に委託され、県が代行して事業実施を行っています。

平成二十五年度は、気仙沼市内四カ所で、伐倒駆除を四二六本(二五四方メートル)行いました。これは前年度に駆除したのと同様の量になります。防除事業は毎年行っており被害は減少傾向だったのですが、東日本大震災後に一時的に防除できない期間が続き、沈静化しつつあった被害が再燃してしまった状況です。

地上散布は、市内八カ所、計三十二ヶ所で実施しました。散布する場所は観光名所が多いた

め、観光に来られる方に配慮し、散布はまだ薄暗い早朝から行われました。散布を行った七月一日と二日は梅雨時期でもあり天候の影響も危惧されましたが、当日は快晴無風で、松くい虫の羽化脱出前に散布を完了することができました。

今年度は適期に事業を実施することができましたので、秋以降に防除効果が十分に発揮されることを期待しています。地域の方からは、「枯れる松が増えているのでは」と心配する声も聞かれますが、気仙沼市の松を守るため、これからも尽力していきます。



(気仙沼地方振興事務所)

研究情報コーナー

ニホンジカによる森林被害を予防するために

近年、全国的にニホンジカ(以下、シカ)の生息分布域が拡大しています。宮城県では昔から牡鹿半島に生息していました。が、平成二十四年度までに寄せられた目撃情報では、気仙沼市から石巻市にかけての北上山系と、栗原市、大崎市鳴子地区の奥羽山系北部まで分布が拡大していました。



シカが高密度に生息する牡鹿半島の森林。林床植生が消失し土壌が流出している。

ニホンジカは、繁殖期以外はなわばりを作らず、多様な植物を採食し繁殖率が高いため、高密度状態が維持されることがあります。シカが高密度に生息する森林では、植栽木の食害や造林木の角研ぎ被害、林床植生の減少と土壌流出、採食圧による

森林の更新阻害などが発生し、生物多様性の低下などの森林が持つ機能を発揮することが困難になります。

県内では、このような森林への影響が牡鹿半島で顕著にみられ、今後シカの分布が確認された他地域でも影響が出ると懸念されます。

宮城の豊かな森林を保全するためには、シカの捕獲を進めるとともに、個体数を増加させないための生息地管理が必要であるとされています。例えば、シカの生息密度が高い地域では、植栽地の食害防止対策を実施するなど、森林を保護しながら、捕獲により生息密度を下げる必要があります。生息密度が低い地域では、シカが増加しないよう捕獲し、シカの好適な採食場所となる皆伐跡地を放置せず、植栽するなどの生息地管理が急務です。このように、森林施策とシカの管理は密接なつながりがあり、シカの生息状況に応じた対策が重要です。

林業技術総合センターでは、シカの生息分布や生息密度調査を実施し、シカによる森林被害の予防をサポートしています。

(林業技術総合センター)

環境資源部

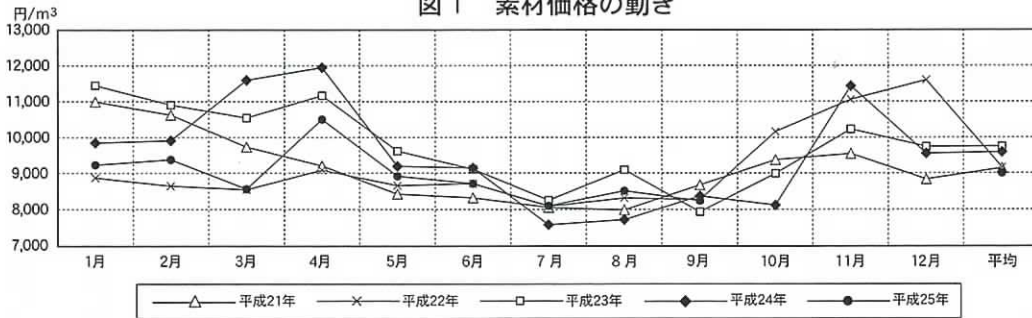
木材市況の動向

表1 各共販所別木材市況(平成25年9月)

樹種	材長 m	径級 cm	価格(中値 単位:円/m ³)					
			仙南	石巻	仙北	東和	大衡	津山
スギ	3.00	14~16	—	—	—	—	9,000	—
		16~30	9,000	—	—	—	—	—
		20~30	—	—	—	—	—	9,000
	4.00	10~13直曲	8,500	—	10,080	10,080	9,000	9,000
		14~18	9,720	—	10,080	10,080	9,000	9,000
		20~28	—	—	10,080	10,080	—	—
		30上	—	—	10,080	10,080	—	—
	3.65 ~4.00	20~28	10,080	—	—	—	9,600	9,500
		30上	10,080	—	—	—	10,080	10,080
1.95	16上	6,120	—	6,120	6,120	6,120	6,120	

資料: 県森林組合連合会

図1 素材価格の動き



素材: 県森連共販所市況(平均価格)

特産市況の動向

表2 生しいたけ価格の市況

単位: 円/kg

年次	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平成20年	977	990	959	903	836	771	760	773	870	846	968	964
平成21年	973	893	886	884	770	716	719	760	741	840	791	844
平成22年	936	840	783	760	710	661	667	786	810	791	843	938
平成23年	924	862	778	758	740	773	754	797	868	861	867	975
平成24年	939	875	798	755	611	711	707	785	829	882	835	1,004
平成25年	989	918	890	814	827	730	730	802	840	880		

資料: 仙台中央卸売市場

図2 生しいたけ価格の動向

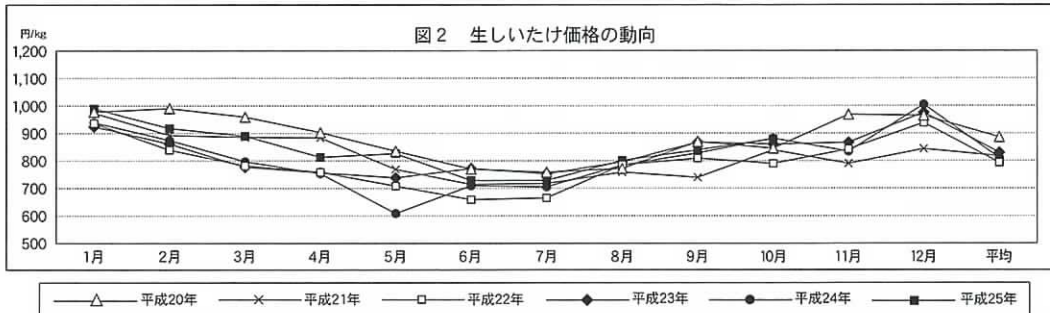


表3 宮城県の新設住宅着工戸数

項目	総数	木造戸数	非木造戸数	木造率(%)
平成25年8月(戸)	1,678	1,375	303	81.9
平成24年8月(戸)	1,779	1,177	602	66.2
前年同月比(%)	94.3	116.8	50.3	—
平成25年1月~25年8月(戸)	14,715	9,818	4,897	66.7
平成24年1月~24年8月(戸)	12,194	8,313	3,881	68.2
前年同期比(%)	120.7	118.1	126.2	—

資料: 住宅着工統計

概況


新設住宅着工戸数

新築住宅着工戸数は、前年同月比が5.7%減となったが、前年同期比(1月~8月)は20.7%の増となった。構造別では、木造が前年同月比16.8%増、前年同期比18.1%の増となり、木造率が前年同月の66.2%から81.9%に増加した。

素材動向

各センターへの入荷が少なく材不足となっている。その影響から原木価格は4.00m小丸太材を中心に値上がり傾向での動きとなっている。今後も各製材所は材不足の影響と、在庫確保の仕入に入ることから価格は横這いから値上がり傾向での動きになると思われるので出荷協力をお願いいたします。(宮城県森林組合連合会)

国産材(生産販売)、木材チップ生産
製材業、伐出造林請負

 **宮城十條林産株式会社**

代表取締役 亀山 征弘

本 社 〒980-0871
仙台市青葉区八幡3丁目2番7号
☎仙台(022)261-2151(代) FAX(022)261-2150

営業所 気仙沼・栗駒・飯野川・大和・白石・郡山・岩出山
工場 気仙沼・栗駒・白石・岩出山
関連会社 宮十運輸株式会社・宮十造園土木株式会社
株式会社宮城環境保全研究所

明治41年創業
～100年かける家づくり～

 **株式会社 サカモト**

自然との共生循環をテーマに、
私たちは森を愛し大切に育てています。

〒989-1601
宮城県柴田郡柴田町船岡中央 1-9-12
TEL(0224)58-1100 FAX(0224)58-2252
www.web-sakamoto.co.jp

宮城県木材チップ協同組合

代表理事 亀山 征弘
専務理事 亀山 武弘
理事 小山 松夫
理事 佐々木 市夫
監事 阿部 貢三
監事 小澤 幸三

〒980-0871 仙台市青葉区八幡三丁目2番7号
電話 022(261)2151 FAX 022(261)2150

宮城県木材チップ工業会

会長 奥津 文男
副会長 亀山 征弘
副会長 永井 政雄
副会長 米澤 光秀
副会長 山形 喜昭
ほか理事一同

〒980-0871 仙台市青葉区八幡三丁目2番7号
電話 022(261)2151

見て触れて住んでしみじみ木の住まい
宮城県木材協同組合
理事長 佐藤 豊彦

宮城県木材需要拡大協議会
会長 高橋 義宣

みやぎ材利用センター
会長 亀山 征弘


〒981-0908 仙台市青葉区東照宮1-8-8
TEL: 022-233-2883 FAX: 022-275-4936

一般財団法人 佐々君治山報恩会

代表理事 尾花 健喜智
事務局 長 佐々木 治樹

〒989-6165 大崎市古川十日町4番14号
TEL (0229) 22-1281
FAX (0229) 22-1281
E-mail: sasakimi@proof.ocn.ne.jp

森林は大切な資源です
森林整備を通して
美しい森林を未来に伝えます

 **一般社団法人 宮城県林業公社**
(森林整備法人)

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL (022)275-9171 FAX (022)275-9172
E-mail: miya-rin@violin.ocn.ne.jp <http://www16.ocn.ne.jp/~miya-rin/>

地域林業の活性化と農山村地域の振興・発展に貢献

林業従事者の退職金共済・社会保険への助成、林業就業支援講習・「緑の雇用」現場技能者育成研修・森林・林業人材育成加速化事業等の実施、就業相談会の開催、林業関係雇用情報の収集と無料職業紹介等を行っています。

公益財団法人 みやぎ林業活性化基金 宮城県林業労働力確保支援センター

〒980-0011 仙台市青葉区上杉2丁目4-46 宮城県森林組合会館内
TEL/FAX 022-217-4307

次代へ進むメーカーと共に技術で、商品で、ニーズに応えます。
製材機械・木工機械・林業機械・プレカット・集成材プラント・乾燥機は

信頼の高い筒井鋼機株式会社へ

筒井鋼機株式会社

本社	仙台市青葉区花京院二丁目2-22	TEL022-224-1261・FAX022-265-9231
盛岡営業所	盛岡市青山四丁目47-32	TEL019-641-7713・FAX019-641-7807
郡山営業所	郡山市田村町金屋字新家34-1	TEL024-944-5912・FAX024-943-5987

E-mail info@tutuikoki.co.jp
U R L http://www.tutuikoki.co.jp



緑の募金
森のチカラで、日本を元気に
2013年 緑の募金 キャンペーン

事務所、店舗等カウンターへの
「緑の募金箱」の設置

春期募金期間 4月1日～5月31日 **秋期募金期間** 9月1日～10月31日

公益社団法人宮城県緑化推進委員会
〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17 宮城県仙台合同庁舎内
TEL.022-301-7501 FAX.022-301-7502

農林中金は、「公益信託 森林再生基金」(FRONT80)等を通じ、森林の公益性発揮に向けた取組みを積極的に支援していきます。

農林中央金庫 仙台支店

〒980-0011 仙台市青葉区上杉一丁目2番16号 (JAビル宮城内) ☎022(711)7531(代)

私たちは森林づくりのプロフェッショナルです。ご相談はお近くの森林組合に！

JForest 宮城県森林組合連合会

森林組合系統の新しいロゴマークです

仙台市青葉区上杉2丁目4-46
TEL022-225-5991 FAX022-225-5994

■優良みやぎ材の原木は

仙南木材センター 0224-65-2166	東和木材センター 0220-45-2240
大衡綜合センター 022-345-2205	津山木材センター 0225-68-3038
岩出山木材センター 0229-72-1877	石巻木材センター 0225-95-6065

■樹木の枝や根の有効利用は ウッドリサイクルセンター 022-345-6041

◎山林用苗木生産、海岸防災林復旧事業用抵抗性クロマツ苗木生産

宮城県農林種苗農業協同組合

組合長 太田 清 蔵

〒980-0011 仙台市青葉区上杉二丁目4番46号
TEL (022) 222-3661 FAX (022) 222-3688

林業の^今を伝える月刊誌 平成26年度の購読申込受付中!!



GR 現代林業

A5判 80頁
年間購読料 5,200円(送料込み)



林業新知識

B5判 24頁
年間購読料 2,800円(送料込み)



山林

A5判 66頁
年間購読料 3,500円(送料込み)

図書の申込、問い合わせは

宮城県林業振興協会

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
宮城県仙台合同庁舎10階

TEL 022-301-7501
FAX 022-301-7502

発行 宮城県林業振興協会 仙台市青葉区堤通雨宮町四番十七号
編集協力 宮城県農林水産部林業振興課
☎022-222-3011-7501